

# 妊娠,産褥ラットにおける脂肪組織中TNF- $\alpha$ のmRNA量及びアポトーシスについて

著者	川口 香, 杉山 隆, 菅谷 亜弓, 豊田 長康
雑誌名	糖尿病
巻	43
号	suppl. 1
ページ	S-103
発行年	2000-04-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10076/2761">http://hdl.handle.net/10076/2761</a>

I-A-02 妊娠、産褥ラットにおける脂肪組織中TNF- $\alpha$ の  
mRNA量およびアポトーシスについて

三重大学医学部産科婦人科

川口 香、杉山 隆、菅谷重弓、豊田長康

(目的) 妊娠、産褥に関する糖および脂質代謝の変化は胎児発育および授乳に対応するための生理的变化である。前者は妊娠後期におけるインスリン抵抗性の発現として、後者は血中脂質および体脂肪組織量の増減として認められる。この代謝のメカニズムについて脂肪組織が産生するアディポサイトカインに注目し、ラットにおける脂肪組織中のTNF- $\alpha$ のmRNA量をRPA法により測定した。また脂肪量の変動についてはTNF- $\alpha$ によるアポトーシスの可能性も考え、DNAラダー法で検討した。(結果) 妊娠5、10、15、20日および産褥5、10日のラットにおいてTNF- $\alpha$ のmRNA量は変化しなかった。また妊娠13、20日および産褥1、2、3、5日で脂肪組織のアポトーシスは認められなかった。(結語) 脂肪組織中のTNF- $\alpha$ は妊娠産褥期の代謝の変化に関与せず、また体脂肪量の変化はアポトーシスによるものではない可能性が示された。